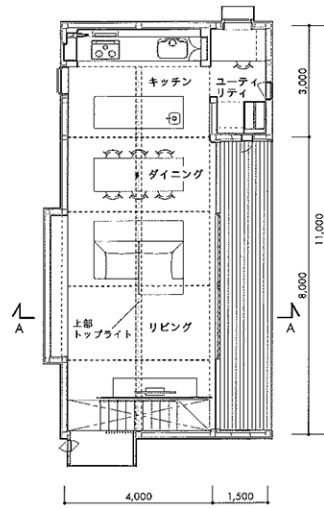
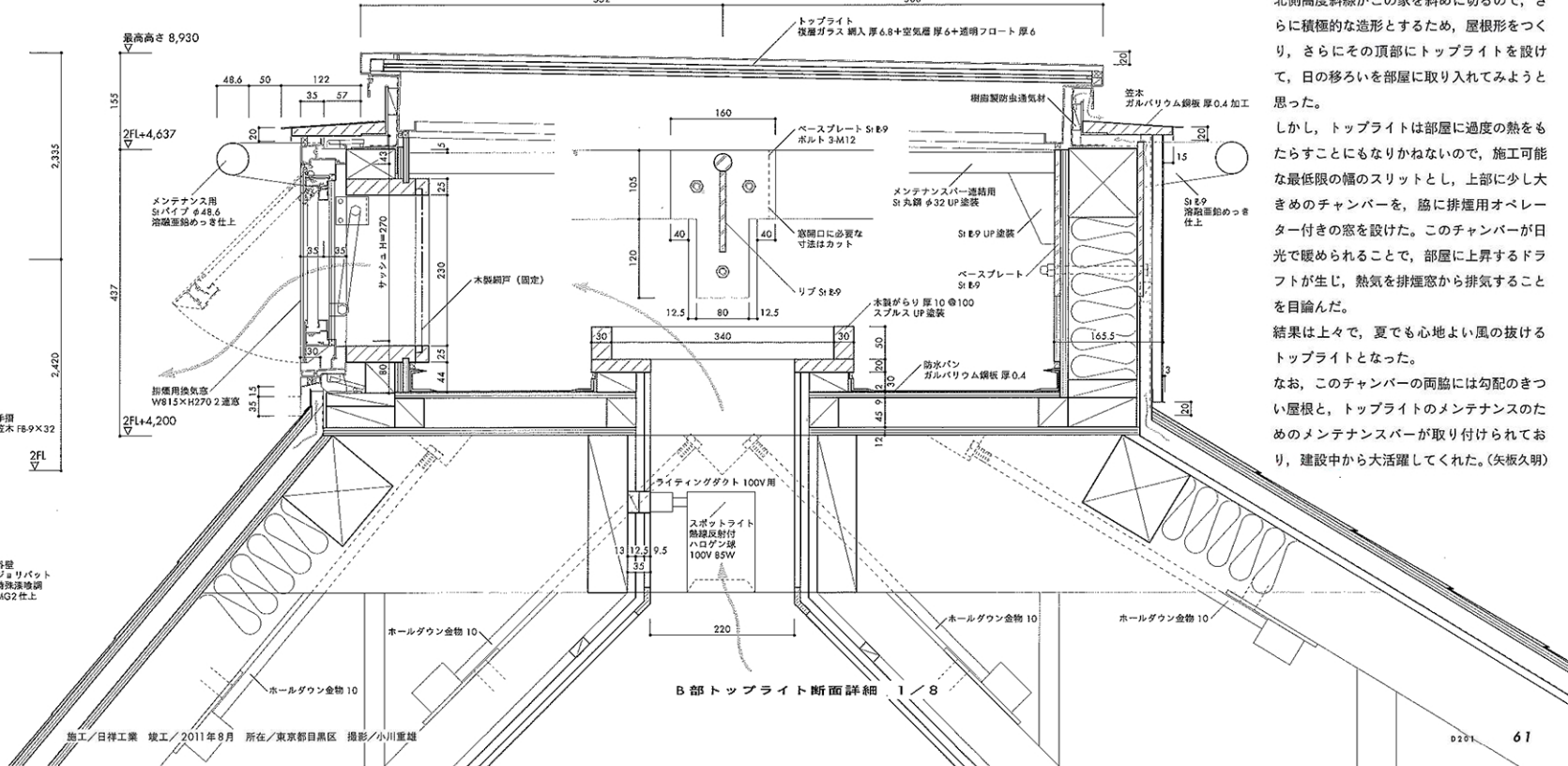
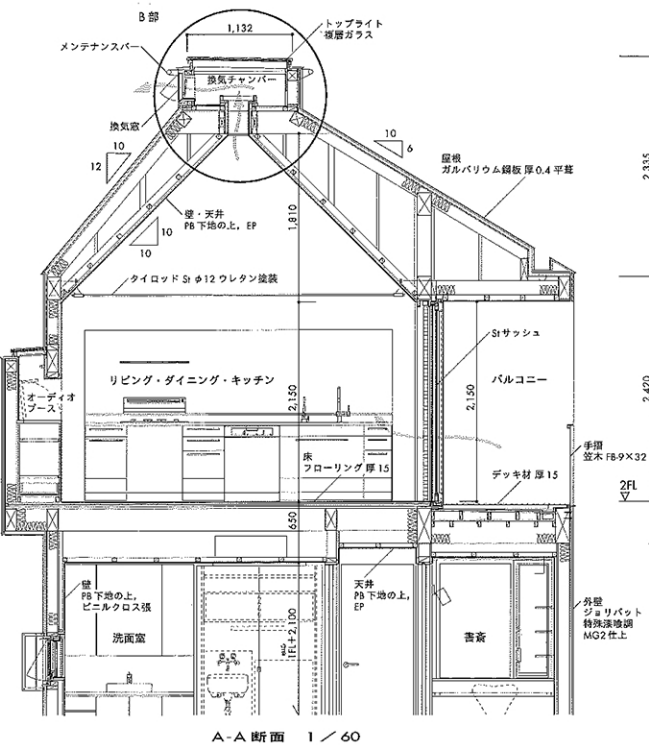


ドラフト感が感じられるほど排気される メンテナンスバー付きのトップライト

八雲の家 矢板建築設計研究所



2階平面 1/150



北側高度斜線がこの家を斜めに切ることで、さらに積極的な造形とするため、屋根形をつくり、さらにその頂部にトップライトを設けて、日の移ろいを部屋に取り入れてみようと思った。

しかし、トップライトは部屋に過度の熱をもたらすことにもなりかねないので、施工可能な最低限の幅のスリットとし、上部に少し大きめのチャンバーを、脇に排煙用オペレーター付きの窓を設けた。このチャンバーが日光で暖められることで、部屋に上昇するドラフトが生じ、熱気を排煙窓から排気することを目論んだ。

結果は上々で、夏でも心地よい風の抜けるトップライトとなった。

なお、このチャンバーの両脇には勾配のきつい屋根と、トップライトのメンテナンスのためのメンテナンスバーが取り付けられており、建設中から大活躍してくれた。(矢板久明)